

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500030
法人名	株式会社 お茶屋の里
事業所名	グループホーム 下の茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町2-8-23
自己評価作成日	平成21年 9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知度が進行している利用者の受け入れにも努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●管理者は「ご家族は、ケアを共にするパートナー」と捉え、気さくに話しかけ、ご意見を引き出せるよう努力されている。ご家族からの医療費についてのご意見があれば、医療機関につないだり、おむつ等の介護用品代についてのご意見は「おむつを個別に持ち込まれてもよい」ことをお伝えされた。毎月発行されている事業所便りには、日々の利用者の様子の写真も載せ、個別の「状況報告書」には、食事、排泄、身だしなみ、睡眠等の項目に沿ってご本人の日々の様子を伝えておられる。3月に事業所で行った「認知症勉強会」には10名のご家族が参加された。
●車椅子を利用されている方も散歩に出かけられるよう支援されており、近くの遊歩道や近所のお寺にお参りに行くこともある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 下の茶屋

(ユニット名) 木 蓮

記入者(管理者)

氏 名 石川 澄子

評価完了日 平成21年 9月 25日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			管理者が短期的に交代し、全員で毎朝唱和していたのが、現在されていない。	
			(外部評価)	
			事業所では、「地域の中で交流やふれあいを密にし、楽しみや生きがいを持てるように」と理念を掲げて、職員の集まる場所に掲示されている。	管理者は、今後、職員と意見を出し合い、新しく理念を検討していきたいと考えておられる。又、日々の記録や介護計画についても、理念に基づき作成できるよう取り組みたいと話しておられた。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			月1回施設周囲の清掃作業を行ったり、運営推進委員会で地域の行事の情報を得たり、ボランティアグループの協力を得たりしている。	
			(外部評価)	
			近所の方等と日々のあいさつに心がけておられる。月に1回、地域のボランティアの方が、衣服のつくろいや氏名書き、お話相手に来て下さっていたり、今夏も中学生の職場体験を受け入れられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			家族を含めた学習会（認知症について）を行った。定期開催とまではいかないが、将来的には年間計画として行いたい。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価)	
			2ヶ月に1回会議を行っている。ホームでの取り組み の報告、アドバイスを受けて、ボランティアの協力 の輪が広がっている。	
			(外部評価)	
			自治会長や民生委員の方の出席をいただき、地域の防 災のことや盆踊り大会等の行事のこと等、地域の情報 を聞かせていただいている。会議では、各出席者から それぞれの活動の報告を受けて、自由に話し合うよう にされている。	ご家族にも会議の案内をされているが、ご都合やご事 情もあり、出席いただくことは少ないようである。ご 家族が関心を持てるような会議の内容等も工夫を重ね て、利用する側であるご家族にも多く出席をいただ けるよう、取り組みをすすめていかれることが期待され る。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価)	
			2ヶ月に1回の運営推進会議に参加して頂き、協力関 係は築けている。	
			(外部評価)	
			市の担当者に、事業所から生活保護受給者の生活支援 等を相談されている。介護相談員の方を受け入れてお られる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			全職員で拘束について意見を出し合い、スタッフ間で 無意識に行ってしまうことがないよう、日常的に注意 しあっている。	
			(外部評価)	
			インターネットで身体拘束について知識を調べたり、 日々行っているケアについて、拘束にならにか職員で 話し合っておられる。	

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 （外部評価のみ）
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 介護の方法について、スタッフで検討や反省を機会を見つけて行っている。（言葉の使い方、介護技術について）	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は研修等で学んでいるが、全職員のものとはなっていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約等は管理者が説明を行い、取り交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月１回、家族へ利用者の状況の報告をしており、入口には意見箱の設置をしている。行事時も家族へ毎回要望を寄せてもらうよう、お願いしている。 (外部評価) 管理者は、「ご家族は、ケアを共にするパートナー」と捉え、気さくに話しかけ、ご意見を引き出せるよう努力されている。ご家族からの医療費についてのご意見があれば、医療機関につないだり、おむつ等の介護用品代についてのご意見は「おむつを個別に持ち込まれてもよい」ことをお伝えされた。毎月発行されている事業所便りには、日々の利用者の様子の写真も載せ、個別の「状況報告書」には、食事、排泄、身だしなみ、睡眠等の項目に沿ってご本人の日々の様子を伝えておられる。３月に事業所で行った「認知症勉強会」には１０名のご家族が参加された。	 管理者は、足遠くなっているご家族との連絡を取り、意見をお聞きする機会を作っていきたいと考えておられた。家族会への呼びかけ等もすすめ、ご家族の意見を聞きながら事業所のサービスの質の向上に取り組んでいかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月1回スタッフ全員での話し合いを行っている。	
			(外部評価)	職員は、資格取得に向けて励んでおられる方もあり、管理者がアドバイスをされる等、応援をされている。職員のスキルアップから貴事業所のさらなるケアの質向上を目指していかれてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			業務改善を行い、休憩時間の確保を行った。研修を付ける回数を増加した。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			新入社員オリエンテーションを作り、スタッフの力量に合わせた指導を段階的に行えるよう計画した。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			市内もしくは東予地区での交流の場に積極的に参加している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前面接を実施し、本人・家族からの話を充分聞くよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 新規入居時は家庭に出向き、本人家族と充分にコンタクトを取るようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 定期・不定期に限らず、受診を希望される場合、その支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その人の出来る部分を生かし、掃除や洗濯の取り込み・たたむこと、食事の片づけなど協力し合っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族へは情報を提示し、家族とともに本人を支えていけるよう、関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友達が訪ねてきたり、いつでも誰でも来てもらえるようにしている。 (外部評価) 職員が付き添い、以前から利用されている美容院や、化粧品店の利用を続けている方もある。「お墓参りへ行きたい」との利用者からの希望をご家族に伝え、ご家族と出かけられた方もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 居室に閉じこもらない生活を送ってもらっている。フロアーで皆と過ごす時間が長い。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院から他施設へ移るケースが多く、関係は断ち切られている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ちょっとした言動から気づこうという方針から、利用者への話しかけを指導している。 家族の訪問時、情報を得るよう務めている。	
			(外部評価) 利用者個々の「日々の希望」や「職員の気づき」は、日々の記録に留めておられる。	管理者は、今後「職員が使いやすい」アセスメント表等の改善に取り組みたいと考えておられた。今後さらにアセスメントの充実から利用者個々の思いや意向の把握に努めて、利用者個々が「その人らしい暮らし」を続けていけるような支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族・担当ケアマネから情報を得るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 行動を観察し、話の中から性格や生活の送り方を探るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			現在、様式を変え、より具体的につかめるよう実施中。	
			(外部評価)	
			職員で意見を出し合って、介護計画について話し合っておられる。計画は3カ月ごとに見直しされ、毎月モニタリングされ、利用者の状態変化時には随時計画の見直しをされている。	ご家族へは、介護計画の説明に留まっている方もあり、今後は、ご家族等から要望や希望をお聞きして計画に採り入れて、ご本人がより良く暮らせるような支援ができるよう、取り組まれてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別ノートにて職員間の情報共有につとめている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			出来ていない →入旧検討中の方へのお試し入居を今年行ってみた	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			不十分である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			入居時に受診先の確認と希望を聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			状態変化時は報告を行い、判断してもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時は担当D r.、看護師、ソーシャルワーカーとの面談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			十分に出来ていない。	
			(外部評価)	
			事業所では、看取りは行わない方針であり、ご本人が口から食べ物を食べられなくなったら、医療機関とも相談してその後の受け入れ先に引き継ぐようになっている。	ご本人やご家族の終末期支援の希望等をお聞きしたり、不安や心配なことを訪ねてみるような機会も作ってみてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 出来ていない。今後の課題。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は行っている。 地域との協力も積極的に対策を講じている。 地区防災教室が開催され、参加した。 (外部評価) 消防署の協力を得て、2年に1回、避難訓練を行ってられる。又、事業所は1年に1回、避難訓練を行い、主に新人職員が参加して「通報訓練」等を行われている。短時間で全職員に伝わるような緊急連絡網を新たに作られた。	 管理者は、今後も地域防災教室に継続して参加していきたいと考えておられ、事業所で実施する避難訓練の回数も増やしていきたいと話されていた。いざという時の職員の不安な点を聞き取り、いろいろな時間帯や場面等を想定した訓練を重ねていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけに対し、スタッフ同士が注意しあっている。 (外部評価) 管理者は、利用者個人のファイルの管理や、個々の家庭環境等を共用空間で話さないことを職員に話しておられる。職員は、「利用者を自分の親と同じように思い、又、人権を大切にかかわっていきたい」と話しておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) スタッフの一方的な支援とならないよう、本人への言葉かけを重視している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間、食事時間など本人のその日の状況に合わせて行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個人で化粧品を持ってくる人もいます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は作っていない。 (外部評価) 食事は、調理出来ているものが届くようになっており、利用者と職員で食事をしながら「今日のお肉はちょっと硬いね」等、感想を出し合い業者に意見を揚げ、反映してもらうようになっている。体調に合わせて、おかゆにしたり、きざみ食等にされている。誕生日には、ご本人に「何が食べたいか」お聞きして、ちらしずしやからあげ等、個々に合わせたメニューでお祝いをされている。調査訪問時、利用者は、配膳や下膳、テーブル拭きをされていた。	管理者は、今後、食事を利用者とともに手作りする機会をもっと増やしていきたいと考えておられた。又、食事作りを通して「利用者のできることを行えるよう支援していきたい」と話しておられた。時には、食事に関してご家族等の意見を聞くような機会も設けてみてはどうだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量や食事摂取量は把握・記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアと、毎夜の入歯の処置（ポリデン）は行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表に基づき、その人のリズムにあったトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			トイレの認識がむづかしい方に、ポータブルトイレを居室に置いて試みてみられたり、地域のお店等に和式トイレがないか探してみる等、模索をされた。又、「散歩の前にトイレに行っておきませんか。」等と誘って、トイレで排泄ができるよう取り組まれている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			週3回以上、1日4～5名入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			2日に1度、入浴できるよう支援されており、失禁時にシャワーをされたり、足浴等も対応されている。男性職員は、女性の利用者の入浴時にはドア越しで、利用者の羞恥心に配慮して見守りをされることもある。	
46			(自己評価)	
			食後の休息は、ソファを利用してもらったり、居室に戻られたり自由にされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日確認のもと、一人一人セットし、用法ごとに服薬介助を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 身体的・能力的状況を見極め、本人の要望も取り入れて、各個人に合わせた支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 各人の身体状況に合わせ、担当者をとっており、各担当者がドライブなどに連れて行っている。 (外部評価) 利用者からの外出の希望は少ないようであるが、おやつを買いに行かれたり、職員からドライブにお誘いして、ひまわり畑やマイントピア等の名所等にも出かけておられる。又、外食等にも出かけておられる。車椅子を利用されている方も散歩に出かけられるよう支援されており、近くの遊歩道や近所のお寺にお参りに行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理ができない人がほとんどだが、数名は本人の自己管理で、買い物の要望時は同伴にて介助及び支援をおこなっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の能力に応じ、支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			毎朝、全体の清掃・整理に務めている。	
			(外部評価)	
			利用者は、日中、居間で皆と過ごす時間が多く、調査訪問時、ススキが飾られている居間では、職員とおしゃべりされている方やお好きな塗り絵をされている方、ソファに横になっている方等が見られた。インフルエンザ予防や消臭効果のある器具が設置されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			フロアでの座席は各自の自由にしてもらっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			自宅での生活習慣を聞き、また身体状況を見極め設置している。	
			(外部評価)	
			パンフレットに「普段使っておられた馴染みの家具などをお持ちください」と明記されており、利用者個々に家具、机、観葉植物等を持ち込まれている。ご主人が手作りしたベンチがあり、ご本人が一休みする椅子になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			安全面で不安のある人については、センサーを設置し、本人の行動を察知した介助方法を行っている。	